

特別補助・特色教育振興モデル事業報告書

幼稚園名 吉塚幼稚園

1. モデル事業のテーマと成果

(1) テーマ

「幼児が綿を栽培する事により獲得する自然体験と生物に対する直接的経験」
目標

1. 綿の栽培を通して植物の成長の不思議さと感動を経験する。
2. 綿から糸ができる事、その糸を織って布ができる事、自分たちの衣服がそのような作業を通してできあがっている事を体験を通して理解する事。
3. 綿を日常の保育に利用し、絵画・造形活動をする。
4. これらの活動の成果をホームページや WEB カメラを利用して保護者や教育関係者と共有する。

(2) 成果

1. 綿の栽培を通して植物の成長の不思議さと感動を経験する。
幼稚園の教育においては、ほぼ総ての分野で平等で機会均等な教育がなされている。その中で、植物の栽培は、同じ環境で育てても、微妙な要因の違いから成長の差が現れ、園児にとって新鮮な体験を経験する事が出来た。途中で枯れる事も経験し、生命の不思議、大切さを実感できた。種の発芽時期についても、年長のように3年間経験すると、感受性の鋭い園児は気温との関係を直感的に理解している。夏場に毛虫が付き、かなり葉を食べられた。年長の水遣り当番の園児と対策を相談したが、毛虫を殺す事には抵抗があり、そのままにする事となった。結局みすばらしい綿にはなったが、枯れる事はなかった。絵本の世界と現実の世界をどの様に指導するかは、これからホームページの掲示板を通して日本中の幼児教育関係者とディスカッションしたい。本園の自然教育活動は保護者の支持も得る事が出来、自発的協力者も現れている。特に農業を営んでいる園児の祖父から稲の栽培に関して献身的な協力を得た。稲の栽培では、植物の成長と食の関係を十分に理解させる事が出来た。
2. 綿から糸ができる事、その糸を織って布ができる事、自分たちの衣服がそのような作業を通してできあがっている事を体験を通して理解する事。
幼稚園児に限らず最近の子ども達の手先の器用さが劣ってきている事は、教育関係者の心配事の1つである。今回収穫した綿から糸をつむぐ事に挑戦してみ、幼児でも機会さえ与えれば、かなりの事を喜んで行う事が判明した。大人にとっての労働も、子どもにとっては遊びになってしまい、太さと細さ、引

っ張りによる強度、皮膚感覚など、物の性質と自分自身の感覚との関係を発達させる事が出来た。また、集中力、根気強さも育った。

今回の教育内容は、福岡市中央区の小笹幼稚園石松園長の指導をいただいた。小笹幼稚園では、羊の毛から毛糸をつむぐ体験保育を長年されていて、たくさんノウハウをいただいた。

3. 綿を日常の保育に利用し、絵画・造形活動をする。

収穫した綿の一部は、11月18日に行った作品展では、アイスクリームやクリームソーダなどの造形活動の材料として、自由な発想のもとに使われた。絵画指導の柴田講師のもとで、現在牛乳パックから作る和紙に着色した綿を漉きこみ、空と雲をイメージした紙の製作に励んでいる。色を変えると夕焼けのイメージとなる。その紙を素材として絵画制作に発展している。

4. これらの活動の成果をホームページやWEBカメラを利用して保護者や教育関係者と共有する。

子ども達の活動はホームページの形で保護者や教育関係者をはじめ、どなたでも見る事が出来るように工夫した。特に子ども達の様子の写真と子どもの発言を組み合わせ、出来るだけ子ども達の気持ちがそのまま伝わるように工夫した。次のステップとして、ホームページ上で子ども達の動画を見る事が出来るように改良している。またWEBカメラで、リアルタイムに子ども達の活動を家庭で見ることが出来るように取り組んでいる。